



地域でともに幸せに暮らしたい

～知的・発達障がいのある

わが家の子どもの子育て～

黒田 美恵 さん (そにっとキャンプ親の会「もりびと」)



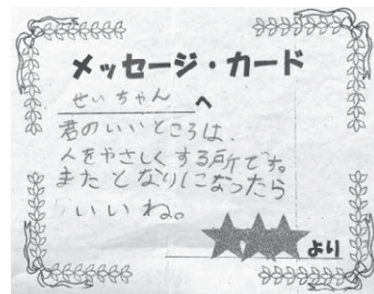
講座4では、そにっとキャンプ親の会「もりびと」の黒田美恵さんに、「地域でともに幸せに暮らしたい～知的・発達障がいのあるわが家の子どもの子育て～」と題して、保護者の立場からの思いやかわり方についてお話しいただきました。「困った子」ではなく「困っている子」という視点で子どもを捉えることで、誰もが地域で幸せに、一人ひとりの大切な命を輝かせることができるようになることを共有することができました。

◇3歳～診断を受けて～

清太郎さんが3歳のときに知的障がいを伴う自閉症であるという診断を受け、3日間、1日中泣き続けていた黒田さんは子どものために前を向かなくてはと再起します。親の会に入会したり、支援センターとかかわったりするなかで、「子どもはそのまま、ありのままがいい。変わることができるのはまわりなんだ」ということに気づきます。地域のなかで暮らすために「ご近所に迷惑をかけたなら謝り、助けてもらったなら感謝する」という育て方をしようと決め、清太郎さんのことを紹介した「清太郎便り」の配付をはじめます。

◇小学校4年生～メッセージ・カードのやりとり～

清太郎さんが地域の幼稚園・小学校・中学校でともに育ってきたことで、ありのままの姿を地域の皆さんに理解してもらえました。右のメッセージ・カードは4年生のクラスメイトから清太郎さんに渡されたものです。「せいちゃんへ 君のいいところは人をやさしくする所です。またとなりになったらいいね」とともに生活をする中で、まわりの子たちも「困ったところ」だけをみるのではなく、「良いところ」も感じるできるようになっていきました。



◇地域でともに過ごしたことで…



親子ともに、自己肯定感が育まれていきました。
 周囲の人とお互いに、良い刺激や良い影響を与え合うことができました。

講演後、グループワークを行いました。参加者は園・所・学校での子どもたちの姿を出し合い、日々の困り感や大事だと思っていることを共有し、黒田さんからアドバイスをいただきながら話を深めていきました。交流する時間が足りないくらい、熱のこもったグループワークとなりました。

〈参加者アンケートより〉

- 黒田さんは診断を聞きショックを受けられますが、少しずつ受け入れ、適応されていきました。この子のために何ができるのかと考え、地域へと発信していく黒田さんの行動力がすごいと思いました。
- 母としての強さ、弱さなどを赤裸々に聞かせていただき、軽い言葉では書きあらわせません。人として深く考えさせていただき、これから保育をしていくうえでいかしていきたいと思いました。
- 障がいがあってもなくても、どんなお子さんも一人ひとり私たちにとっては大事な存在。それをわかっていても、言葉にしなければ意味が無いんだということを再認識しました。ありのままの子どもを大切に園や家庭、施設で連携して育ちの支えになっていきたいと感じました。